

(仮) 円山動物園ポスト基本構想 第五回検討部会 議事録

平成 30 年 3 月 12 日 (月) 14 : 00 ~ 17 : 00

札幌市円山動物園 動物プラザ

吉中氏 第 5 回、円山動物園ポスト基本構想検討部会、最終回となります。本日は、福津さんが所用のため欠席です。オブザーバーの金子先生もお休みです。資料の議事次第を見ていただけますか。きょう予定の議事ですが、報告事項が 2 つ、そのあと意見交換となります。報告事項は市民意識調査の結果と、前回以降のポスト基本構想作成の進捗状況等について報告をいただきます。そのあと、意見交換となります。それでは、早速議事に入ります。資料はありますでしょうか。札幌市の市民アンケート調査の結果、それと、札幌市円山動物園ビジョン 2050 と書かれた資料です。では、市民意識調査について事務局から報告してください。

事務局
(高橋係長) それでは、私から市民意識調査について報告をさせていただきます。こちらは速報値でありまして、札幌市としての公開が 3 月 29 日となっておりますので、資料の取扱いにはご注意ください。こちらの資料は単純集計したもので、調査は今年の 1 月 12 日から 26 日までに行っています。1 ページ目に概要が書いてございますが、5,000 人に発送し、約 2,600 人から回答を得ております。回答率は 52% となっております。2 ページ目に動物園に行った回数について聞いております。5 年以上行っていない、これまで全く行ったことがない、という方が概ね 60% を占めている形となっております。3 ページ目はそれぞれ円山動物園に期待していることをたずねています。大いに期待してる、期待しているところの数字を読み上げますと、まず、動物を見る・観察することについては、概ね 80% の方が期待しているようです。次、4 ページ目です。動物についての知識を得ること。こちらは概ね 60% ぐらいの方が期待しています。そして、5 ページ目、環境問題に関する学ぶこと、こちらになりますと、ちょっとパーセンテージが減りまして、30% ぐらいの人が動物園に対して期待しています。6 ページ目、写真を撮ったり絵を描いたりすること、こちらも 50% ぐらいの人が動物園に対して期待しています。7 ページ目、動物に触ったり、餌を与えたりすること、こちらは 45% ぐらいの方が期

待しています。8 ページ目、園内を散策したり、くつろいだりすること。こちらは、75%ぐらいの方が期待しております。一方、9 ページ目、イベントに参加することに期待してる方は 30%未満です。10 ページ目、子どもの好奇心を育てることは、80%ぐらいの方が期待しております。11 ページ目、子どもが安全に遊べることは 80%ぐらいの方が期待を寄せております。次に 13 ページ目、冬期間円山動物園にどれぐらいの頻度で来ますかという問いに対して、行かないという方が 65%ぐらいおりました。その理由で一番多いのが屋外が寒いから。次に多いのが、冬の動物園に関する情報が少ないから、という結果でした。15 ページ目です。こちらのほうは、冬期間にかかわらず、あなたが円山動物園に行かない理由を聞きました。一番多いのが、子どもが大きくなったから。続いて、一緒に行く人がいないから。そして時間がないから、興味がないからとなります。16 ページ目、円山動物園にどのようなことが充実したら行きたいと思えますか、という問いに対して、概ね数字は均衡していますが、食事や休憩場所が充実したら行きます、動物の赤ちゃんが見られる機会があったら行きます、駐車場、交通の便が充実したら円山動物園に行きたいと思えます、という調査結果が出ております。17 ページ目、入園料については、現在 600 円いただいておりますが、高いと思うか安いと思うかということに對しまして、どちらとも言えないが 45%。一方、年間パスポート、1 年間 1,000 円ですが、これについて高いと思うか安いと思うかについては、概ね 70%の方が、安いのではないかという意見となっております。19 ページ目からの社会的役割については、パーセンテージがちょっと拮抗しておりますが、市民に親しまれる動物園になってほしい 75%。自然や生き物の保全に取り組む動物園であってほしい 64%、でした。一方、レジャー性を有した動物園であってほしいという方は 26%と、低い数値が出ております。そして、30 ページ目以降は、それぞれ回答された方の傾向が出ていますが、女性の方が 6 割回答いただいています。まだ分析までは至ってはいませんが、一旦、このような結果出ておりますということで、報告いたしました。

吉中氏 ありがとうございます。面白いデータが出てますね。何かご質問、ご意見等あれば出していただけますでしょうか？

佐藤氏 性別もそうですが、年齢もちょっと偏ってますね。まず、60代・70代が4割。

事務局 (高橋係長) 調査は 5,000 人に送付し、各区別、年代別で札幌市全体の人数に対して同じ割

合となるようにしています。回答いただいた方ですが相対的に年齢の高い人が多くなっています。

佐藤氏 若い人と男の人はあまり答えてくれなかったということですね。

事務局 (加藤園長) そういうことです。

佐藤氏

そういう人たちがどう思ってるか知りたいというところはありませんけれども。今は全体の集計ですが、次は、年齢や性別で回答を整理したものが出てくる。

事務局 (加藤園長) そうです、クロス集計したものがでてきます。

佐藤氏

でも、クロス集計しても、答えてくれた人自体が少ない、関心があまり見られない層は難しいですね。

吉中氏 10代・20代の人あまり答えてない。これ、寂しいですね。

事務局 (加藤園長) 回答のなかった50%にこの層の人たちが入っている割合が多いということですね。

佐藤氏 動物園に来ない理由が子どもが大きくなったから、確かにそうでしょう。そういう年齢層からしか返事が来なかったってことですね。

事務局 (加藤園長) ただ、お孫さんと来るとかという人もいます。

佐藤氏

そうですね。

福井氏 過去に10年とか、20年とか前に同じようなアンケートを円山動物園は実施していますか？

事務局 (加藤園長) やっています。

福井氏

それらとの分析とか比較はこれから予定されているのですかね？

事務局 (加藤園長) そうです。

福井氏

どういう傾向に変化があったか？時代の変遷によるものなのか？また、他園の同様なアンケートの結果と比較してみるなどしてはどうか？おそらく、一般市民の感覚と、今回の基本構想で目指している理想、つまり、こういう動物園になっていくっていう決意とには大きなギャップがあると想像する。ただ、円山動物園としては基本方針、基本構想を打ち出した時点で、そこをむしろ目指していくところとして一般の方々に理解をしていってもらえばよい。普及啓発によって広く伝えていかなければならないということになる。アンケート調査の分析結果は重要ですが、市民の要望に応じて、それに追随していくことだけではこだわりが少ない動物園になりますので、それだけではいけない。

事務局
(加藤園長)
福井氏 構想の目指すところの意味も含めて理解をしてもらう、そこも大事だと思う。
課題を浮き上がらせて、そこに集中し、十分な広報かけて取り組んでいくとよいと思います。

吉中氏 一方で、29 ページの結果見ますと、自然や生き物の保全に取り組む動物園を求めている人が 6 割以上いた。面白いです。

事務局
(高橋係長) 回答した 50%以上が動物園に 5 年以上来ていない人からの回答ですので、データとしては貴重だと思います。

吉中氏 そうですね。もう少し詳しい分析されたら面白いかもしれませんね。

事務局
(高橋係長) 前回の来園者アンケートは動物園に来られた人の分析なので、それと掛け合わせて分析することで、より端的な結果が出てくるのかなと思います。

福井氏 むしろ、動物園に来たことがない、5 年間来てないって人たちがいて、また、子どもたちが大きくなって動物園に来なくなった、という傾向があるなかで、その人たちが、どうしたら来られるのかを考えることは、1 つ大きなキーポイントになりますね。そのなかで、保全等に対する意識は少なからずありそうです。入園料までこの検討会で言及することじゃないかもしれませんが、比較的安いと感じるなら、入園料をちょっと高くして、そのうちの数%を飼育動物の福祉とか、保全に役立てるということも考えられる。少しそういうところをアピールできるような、そのきっかけにもなるのかなと思います。難しいとは思いますが、全国に先駆けてやってほしい。

事務局
(加藤園長)
福井氏 全国に先駆けられればいいですね。
たとえば、通常の入園料とは別に保全にちょっとでも寄付、力を貸してくれる人が、入園料と分けてお金を高く出すとか。お金をだしてくれた人には、特別にカードをあげるとか、バックヤードツアーのようなものを入れて、その収入を保全に回していく。そういう取組ができれば画期的かなと思います。

事務局
(加藤園長)
佐藤氏 そうですね。
サポートクラブはありますよね。

事務局
(加藤園長) サポートクラブは、エンリッチメントとかなんですけど。それをもう一段あげて、福井さんが今言った保全とかに使うようになればいい。ただ、もうちょっと金額のロットを上げないとだめですね。

吉中氏 アンケート結果は 3 月 29 日に発表されるそうですが、そのときは、これより

もう少し詳しい分析が出るのですか？

事務局
(高橋係長)
吉中氏

はい、もう少し詳しいデータ分析が出るはずですよ。

よろしいでしょうか？自分の考えてらしたこと、思ってたことと全然違うとかというのはなかったですか？交通の便も悪いから、駐車場とか出てますね。また、意見交換のところになにかありましたら、関連して意見いただいても構わないと思います。では、次の報告事項に移ります。2つ目の報告事項は主要な議題になりますが、ビジョン 2050 ポスト基本構想の進捗状況、前回からどのようなところが変わってきたかということについて、説明願います。

事務局
(神課長)

それでは、資料 2 をご覧ください。ビジョン 2050 ですが、副題が変わってます。自然と人とが共生する社会を目指して、という副題になっています。体裁は前回説明しました通り、A4 版の見開きということになります。はじめのところには、このビジョンを策定するに至った理由、策定の目的が入ります。併せて、札幌市にはいろんな計画がありますが、そういったものは今回、前のほうに移動させました。今回のビジョンとあわせ、上位計画となる札幌市の長期計画、まちづくり戦略ビジョン、これらは計画期間が平成 25 年から 10 年間のものですが、これら計画及び環境基本計画と関係を整理します。また、前回、目次がありませんでしたが、一旦目次のなかで基本理念、その中での生物保全。それから、環境教育というものが基本理念の中心ですと位置づけたい。それを支える仕組みということで調査、研究、レクリエーション、動物福祉、連携というものがあります。こういったものを実現するためにはコレクションプランがあります。こういったことがわかるように目次でも整理をさせていただいています。次に、1 ページ・2 ページとありますけれども、こちらは前回お見せしたもので、2050 年といってるけれども、そこまでどういう道筋でいくのかということ。どんな目標でやっていくのかというものを具体的に示したほうがいいのではないかとということで、矢印を使って表現をしております。それぞれ何年何年という具体的な年数は書いておりませんが、2050 年に向かってステップアップしながら、それぞれで取り組んでいくことが図でわかるかと思います。それから、右側、取り組みの構図ということで、それぞれ保全・教育、それを支えるものということで、動物福祉というものが幹となってきます。皆さまに議論をいただいて、これを葉っぱにしたほうがいいのか、こういったものは水

とか土になるのではないかと、いろいろなご意見をいただきましたけれども、一旦はこんな形でわかりやすく整理してみました。次に、基本理念の 1 本目、生物多様性の保全の関係になります。まずは先ほどと同じように保全、それから、次に来る環境教育につきましても、2050 年に向かってどういうふうにやっていくのかについて、ステップアップ、こういった 3 段階でやっていきますということをここで伝えております。それから、これからの動物福祉・保全については大切な部分ですので、イラストとかもいろいろ入れながら、見開きで説明しています。更にめくっていただきまして、7 ページ。こちらが教育という部分になりまして、先ほどのように 2050 年に向かってどういうふうな取り組みをしていくのかというものを右側の矢印で表現をしております。次、11 ページをご覧ください。11 ページと 12 ページになりますが、こちらは調査研究ということで、見開きで 1 枚分の資料をさせていただいています。前回、ちょっと後ろにありましたが、それぞれ保全・教育を支えるものということで、最初にこの調査研究を持ってきております。ページ数も、A4、1 枚だったものを A4、2 枚にして、見開きで見せるような形にしております。次めくっていただきまして、レクリエーション。こちらについても、見開き A4、2 枚ということでページ数を増やしております。次めくっていただきまして、動物福祉の部分になりますけれども、こちらも前回同様、2 ページ目に見開きで並べています。内容的には、イラストとかを工夫しておりますが、中身的には大きな変更はありません。次めくっていただきまして、連携について 1 枚。更にめくっていただきまして、19 ページ目にコレクションが入ります。前回の説明のなかでコレクションプランについては保全、それから、教育を進めていくために、どんな動物を飼育していくのかと。基本的な考え方をやっぱり示すべきだというお話が委員の皆さまからありましたので、たとえば、こういった項目についてこういう考え、3 つの柱を立てておりますけれども、こういったものに基本的な考え方に基づいてコレクションプラン、これから考えていきますということになります。まだ、具体的に動物名についてはお出ししておりませんが、それぞれその考え方に沿って、今後、環境教育という部分ではこういった動物が必要なんだよとか。保全に関しては、こういった動物が必要なんだよというような感じで示すことになる。それぞれの考え方に沿った代表的な動物を具体的に触れな

がら、わかりやすくしたいと思います。最後、21 ページになりますが、行動指針というところで、今回は実施体制ということで、ちょっとわかりにくい部分がありましたが、この行動指針につきましては、動物園、それから職員、そこで働く職員が、どういうふうにあるべきかということが書かれるところです。職員はどういった心構えでこれから仕事に取り組んでいくのかというものを具体的にここでわかりやすく説明したいと思ってます。それから、右側に市民・企業・各種団体・大学等とありますが、当然、こういったビジョンを進めていくなかで、動物園、それから職員だけでは達成できませんので、それぞれ、市民・企業・団体等の役割についても、ここで触れていきたいと考えております。以上、簡単ですが、前回のもので変わったところについて、主なものだけについて説明させていただきました。

吉中氏 ありがとうございます。前回からかなり変わっていますし、今ここで初めて見るものもあるので、中身を深く読んでご意見いただくのは今は難しいかもしれませんが、このあとの意見交換のところでディスカッションさせてもらえればと思います。まずは、今の説明に対して何か、事実関係等やプロセスについての質問、気をつかれたところ等何かあれば、おっしゃっていただければと思います。大きなところは、前回とそれほど変わってはいませんが、説明にあったとおり、全体の構成を目次から見ていただきたいと思います。基本理念と〇〇が大きく分けてわかりやすくされたということと、ほかの計画等との整合性を最初に説明される形に変わっているところが、まずひとつ大きな変更点です。加えて、2050 年までという長い目で見ることになりますが、ここ 5 年・10 年で何をしていけばいいのかということがまとめられています。8 ページには、2050 年に向けて 3 段階で、目指すものについて整理されています。定性的に見るとこのあたりが大きく変わっているのかと思います。加えて、全取組の構図を示すイラストが、だんだん洗練されてきてわかりやすくなったと思います。みなさん何かありますかでしょうか？

事務局
(神課長)

コレクションプランにつきましては、まだまだ書き切れてない部分があります。ここについては時間をかけて、2050 年を踏まえて、動物園としての基本的な考えを整理し、それをきっちり書きたいと思っています。また、福井先生からもいろいろお話あったかと思いますが、そういうところも踏まえ、しっかり整

理し、コレクション管理の考え方について示したいと思っています。

佐藤氏 1の1の基準なんですけど、横書きで上から順番に読んでくると、すべての人が自然とともに歩む社会になるというのは、2050年にそうならいいなあっていうことなんですか。ここは下から積み上がってくるのですね。

吉中氏 ちょっとわかりにくいですね。

佐藤氏 普通に横向きで読んでくると、いきなり最終目標のほうを見てしまうという形になるので、ちょっとここの順番を少し考えた方がいい。

吉中氏 ちょっと見せ方に工夫があってもいいかもしれませんね。

佐藤氏 あと、この3行の階層の違いも、ちょっとわかりにくいかと思う。

福井氏 僕も、ここところがちょっと引っかけたんですけど。ステップ1・ステップ2・ステップ3とか、フェーズ1・フェーズ2・フェーズ3みたいに、番号でもなんでもいいのですが、そういったものを前につけるだけで、読む順番がはっきりするのではないかと思います。あと、これを言葉にすると、言葉をじっくり読んで、そして理解するという感じになってしまいます。言いたいことは、「まず、学び、知り、実感・感じるみたいな感性的なところから始まって、次に行動までサポートしていく」ということにつながっていき、今度は実現という社会。たぶんそういう階層なのかなと思う。「行動として自然を大切にする」ではなくて、もう少しシンプルに「自然を大切にする」とか、「自然を守る」とかのほうがいいのかないかなあと思いました。言わんとしてることはわかるのですが、その伝え方の表現形の違いだと思います。

吉中氏 このあとの意見交換では、これらを、1つずつというか、細かく見ていきたいと思っています。ただ、初めて今見せられてますので、ざっと読む時間もいるかなと思っています。それぞれ読む時間を10分ぐらい取るのはどうでしょう。皆さんどうですか。よろしいようなら、10分ぐらい資料を読む時間にします。

(一資料読み一)

吉中氏 それではさっくばらんに話ができればと思っております。よろしく願いいたします。それでは、これ以降は、また長谷川さんに議事進行をお願いしたいと思います。

E n v では皆さんよろしく願いいたします。それでは前回いろいろお話いただいたなかで、今回取り入れた部分の内容からまた皆さんにご意見をいただければ

と思います。構想についてですが、まず1つに、ビジョン2050ということで、30年ちょっとぐらい先を見据え、少しハードルを上げた目標を立て、少し遠めの将来をイメージしたものにしたいというところです。すべての項目に30年後ぐらいを見越したイメージを作るというのも1つの選択肢だったのですが、なかには具体的すぎたりとか少しイメージがつきづらかったり、どれも似たようなものになってしまったりというところもあり、今回3か所に、この矢印のマークが出てきます。1つが1ページ目の円山動物園ビジョン2050までのイメージが1つです。それから基本理念として大きく2つ掲げている保全に関するところ。それから教育に関する部分、それぞれ矢印のイメージを加えました。これは職員プロジェクトで職員の方にもご意見も踏まえ、文章表現はまだ拙いところもありますが、イメージとしてはこういうようなものでどうだろうかというふうに考えています。まず1つ目に1ページ目を見ていただきたいのですが、円山動物園ビジョン2050としてのステップアップイメージです。ここに書いた主旨としては、円山動物園が30年後にこうなるというよりは、社会として30年後にはこういうような社会を目指そうというスタンスで書いています。ここのあたりが皆さんどういうふうにお考えか、ご意見をいただきたいところです。ここの主語は「すべての人」としていて、すべての人がこういうふうに振る舞えるようになるとか、実感できるようになるとか、そういうような形の文章になっています。それもあってちょっと抽象的な内容になっています。先ほど福井さんにも整理していただいたように、まずは感じる、実感する、それから行動に移す、そして実現させるというようなステップになっています。大きな字で書いてある文章のほうは、みんなで協力して実現させましょうというような文章にしましたが、これは円山動物園がこういう社会を実現させると書くべきなのかという気もしましたが、どのぐらいのニュアンスで出そうかと考えながらこういう表現しました。これは、のちほどご意見をいただければと思います。それから4ページですが、こちらは円山動物園が大きく2つあげる理念のうちの保全です。ここも職員の方々と意見交換をさせていただきましたし、前回の検討部会でも福井さんからこういうイメージでと意見をいただいたところです。ここは円山動物園が30年ぐらいかけてこんな感じの存在になるという、ここでは円山動物園を主体に考えています。ステップとしては円山動

物園が保全活動の交流拠点として、30年後にはセンター的な役割を担うようになるといったイメージです。そのためにはいろいろなところに関わって行って、活動を実践していくというような感じのイメージを考えています。このあたりは主語が円山動物園ではなく、社会をイメージして、30年後には保全をもうちょっとやっつけてこういう社会になる、という書きぶりもあるかと思いましたが、ここは円山動物園を主体としたイメージで書いています。同じく8ページのほうも教育に関してですが、こちらも、前回高野さんから、環境教育等の必要性がなくなるぐらい保全意識が浸透することが理想、というような意見もいただき、そういう社会を目指すという書きようもあるかと思いましたが、前の文章とそろえまして、円山動物園がこういう位置づけになるというイメージでまとめました。これは金子さんから指摘を受けていましたが、円山動物園が核となって、周りの環境とかほかの施設等と連携して、に大きなフィールドミュージアムのような、そういうものを30年かけて作り上げていこうというようなイメージで作成しています。そこで30年後見据えたときに先ほどの保全と似たような感じにはなりますが、まずは円山動物園が周辺の環境をうまく利用しながら教育効果を上げていく。更には連携していってもっと融合的、複合的な活動を展開していく。その先に全体として円山動物園の枠にとどまらないフィールドミュージアムみたいなものを作り上げていくというような、そういう円山動物園の目標にしてはどうかと思いました。ほかにもいろいろ意見は出していただいたんですが、そういうような感じで考えています。このあたりの、イメージの持ち方といいますか設定の仕方についてご意見をいただければと思います。2050年ぐらいをイメージとしていますが、それぞれに意見をいただければと思います。保全は保全でなにかイメージができて、教育のところとそれなりにバランスが取れてたほうがいいのか、全体の目標ともやっぱり関係するなと思ひ、ある程度この3つはそれぞれのバランスとかを考えながら設定したほうがいいのかというふうに考えてます。あと場合によっては動物福祉にしてもほかのところにしてもすべて30年先の目標を立てるべきではないかというのがあるかと思いますが、そのあたりいかがでしょうか？

佐藤氏 大きい図と、あと矢印についての疑問なんですけど、2ページの木について、動物福祉と円山動物園の位置がこの関係なのか、それとも入れ替えたほうがい

いか？木の幹が円山動物園でその根っこに動物福祉があるのか、どっちか？

E n v これは、円山動物園が根っこということではなくてもっとど真ん中でもよかつたのかもしれませんが、木全体が円山動物園という感じのイメージですね。

佐藤氏 ぱっと見、なかなかそうは見えない感じがあるが。

E n v じゃあ根っこのところに置くのをやめて、ど真ん中がいいですか。

佐藤氏 前は動物福祉が完全に根にあって、その上の幹のなかにいっぱいありすぎるよねっていうことで、それが葉っぱになったりしたと思います。やっぱり最初に出てくるイメージなので、ぱっとみて、円山動物園が一瞬どこにあるんだろうとなったので、そのへんは見た目どうかなという感じがします。

E n v わかりました。もう少し木全体を囲む、木をくくってしまうのを強くするなりして、それ全体が円山動物園を表しているという表現にして、わかりやすくという感じで、よろしいですか。

佐藤氏 そうなったらいいかなと思います。

福井氏 「取り組みの構図」ということなので、取り組みはこれを見ればわかるのですが、前回の検討会でも同じ意見を出させてもらったのですが、葉っぱが茂って木が育ってというところまではわかるのですが、通常木というのは子孫を増やすために生きているもので、その未来形としての花が咲いて、種がつく。つまり種は「成果」ですね。この円山動物園の活動によって「成果」が生まれて、その「成果」がおそらくいろんなところに散らばった子どもの心だとか、そういう子どもを中心とした社会への影響だと思います。難しいとは思いますが、そういうものがちゃんと芽を出して実現に向かっていくというようなイメージを、構図の中で整理するのはどうか？ また、場合によってはもう1つ、ビジョン、目指していくものも、これとも結びつけるとわかりやすいと思います。デザインセンスが要求されますが、イラストのほうがこの文章を読んでいくよりはわかりやすい。目指すところのイメージ図みたいなものがほしい。

E n v はい。芽を描いて、要はそこに何を表すかということですね。あとは確かに花をつけるとか実をならすというのは表現としても使えますし、いろいろ描きようはあると思います。

福井氏 取り組みの構図、連携というところまではわかりますが。

E n v たとえば花を描いたり実を描いたり芽を表現したりしたときに、そこをたとえ

ば絵で描くというのはイラストにしてしまえばたぶん書けると思うのですが。たとえば花を描いたときに、花や実のなかに何かしら文語を入れるとか、そういう表現でいくというのであればその構図のなかに入れるということになりますし、ただ絵として花があったり花が咲いていたり実がなったりという表現もできると思うんですけども。

福井氏 一緒には表現するのは難しいのかもしれませんが、場合によっては別のところあるいは最後か横に並べてかわかんないですけど、なんとなく実ができてそこから子どもの心が出てきて自然や動物とも共生していくみたいなイメージですかね。

E n v すみません、イラストの話をご提案、各意見いただいているので、ちょっと今回の修正ポイントとかをご説明させていただきたいのですが、前回もたとえばいろんな項目を水として表現をしてはどうかとか、ご意見いただいてなかなか悩ましいところだったんですが、今回はまとめるところの制限といいますか、検討しないといけないポイントとしては、円山動物園があってそのなかに取り組む項目としてここにあげてるような保全であるとか教育・調査研究・レクリエーション・動物福祉・連携というような要素があります。確かに表現としてはいろいろな考え方があって、動物福祉とかがやっぱり地面として表現してはどうかとか。また、調査研究とかもすべてにおいて関係しているので、それはたとえば太陽の光であるとか水であるとかという表現も比喻としては表現できるなと思ったのですが、1つには動物園を表す体といいますか、1つのまとまりと動物園の外を表す空間とに分ける必要があったということです。外に地域とか地球とか空間の広がりですね。ここは金子さんからこういう表現をしてほしいという要望もありましたので、この木でも表現するのは鳥でも木でもいろいろやりようがあると思うのですが、外側に広がる世界は地球であったり、地域であったり、外の世界ということ。ということであればなかの項目を木の一部として、ここでは木で表現するような木の一部として表現するというので、今回は葉っぱの枚数を増やしたり、動物福祉を中心に添えたりというような表現になったということです。たとえば土で表したり水で表したりということをするとなれば、たとえばこの木はほんとに木1本だけあって円山動物園と書いてもいいかという気がします。木それぞれの枝とか葉っぱとか根っことか

に別に分けずに、体として木があって周りの要素を全部外側に表現するというやり方もあろうかなと思いましたが、そうすると外の地球とか地域の表現がより一層複雑になるかなということでこういうくり方で考えています。それと前回もご提案いただいた、要素をそれぞれ同じぐらいの大きさにして、いくらかシンプルにすることで各ページのタイトルのところに、たとえば3ページを見ていただくと3ページの左上のところに、これは簡略化した図を載せまして、この保全に当たる葉っぱのそこだけ色をつけて全体の要素との関係性を示せるように、このご意見を取り入れたかったというところもあって、それぞれの要素が同じぐらいの大きさでできるだけ数が少なくシンプルにするというのが1つの手かなということでこういう表現にしたということです。確かに今、佐藤さんにご指摘されたように、円山動物園という言葉が根っこの下にあったのでちょっとここ紛らわしかったのは確かですが、イメージしているのは木全体が円山動物園を表していて、動物としては前回根っこちょっと分けていましたが、要素として幹から根っこにかけての支えてる部分ということで統一してしまいました。というような感じで何かしらいろいろ表現すると、ほかのことが表現しづらくなるという、いろいろなところで今回はこういう提案をさせていただいてるという感じなんです。前は更にもっとイラスト、うちのスタッフが書いたイラストを、今回どこにも載ってないんですが、表紙に木があって人がいて周りに動物たちがたくさんいてっていうようなイラストをつけて。今、福井さんがおっしゃられたようなことは、そういうイラストであれば更に表現の仕方は増えるかなと。そこに芽を、種が落ちていたりとか、種から芽が出ているとか。あるいは葉っぱが落ち葉になって積もっているとかそういう表現をイメージとしてイラストとして書いていくというのであればむしろしっかりイラストベースにしてしまうのも1つの手かなという気がします。こういう図として簡略化していくことといろんな表現織り込むことにはなかなかトレードオフといいますか、一長一短があるかなというふうに思うんですが、このあたりもいくらかこう、何回かバージョンを繰り返すごとによくなっているんだろうか、むしろわかりづらくなっているだろうかと心配してるところですけれど、いかがでしょうか？

吉中氏 すごくよくなっていると思いますが、ビジョン I-1 の部分と I-3 の部分が

どうつながっているのかが分かりづらいかもしれない。1の3は、円山動物園で取り組むそれぞれの項目がどういう位置づけになりますか？ということがまとめられていますけど、それが全体の「自然と人とが共生する社会」を築くこととどういう関係にあるのか、ということがわかりにくいのかなと思う。先ほど長谷川さんおっしゃったイメージイラストみたいなのがあるとまたちょっと変わってくる感じなのですが。この円山動物園の木っていうのを1つだけで自然と共生する社会が実現するわけじゃないので、こういう木がいっぱい出てこないと社会としては実現しないです。そういうことでいくと、たとえばビジョン2050、1の1で書かれてあるところで、ステップ1から3あるいは4、それはこれからだと思いますけど、ステップごとに進展していくときに、円山動物園の木自体も実生からだんだん大きくなって葉が茂って実ができています。併せて、ほかにもそういう木がいっぱいできて全体として森ができあがって、地球が自然と共生する社会になっていく、そういうものがイラストで表現されると、この1の1と1の3がつながるんじゃないかという気がしました。

E n v 1の1のほうにはもう少しイラストにそういうところも盛り込んだ感じの絵を使ってということですか。

吉中氏 たとえばもしこの木のイメージでいくとすれば、全体を通してですが、1の1では最初はわりと若い木があってそれがだんだん成長して行って周りにも同じような木が成長して行って、すごい立派な森ができあがるみたいな、そんなようながあるとどうかなと思いました。

E n v 福井さんがおっしゃられた芽が出てみたいなのところもそういう感じのところ盛り込めばいいでしょうか？

福井氏 そうです。今、吉中委員長がおっしゃったように円山動物園ビジョン2050のイメージを、この矢印のように、視覚的にイラストで表現するのがよく、ビジョンを実現するためにI-3（取り組み）がある。I-2で基本理念というのは生物多様性と教育ということは書いてあるのですが、それが重要な基本理念でそれを達成することでビジョン2050に向かっていくんだっていう、そのリンクするところはイラストで最終形態というのを表現してそのためにI-3が大事なんだとイメージしやすくしたほうがよいと思います。うまくつなげれば、それぞれの関連性や相互作用がわかるかなと思います。

E n v 前回このイラスト作っていく上でまずイメージしたイラスト、このイラストを描いたときはいろんなものを取り込んでいくようなイメージで、まず木が1本あって、遠いところにたとえば遠い地域のホッキョクグマがいたりとかゾウがいたりとか、遠いところにも関わっていきけるし、木のすぐ近くには身近な生き物がいたり子どもがいたり、周りにほかの建物があって関わっていたり、そのなかに新しい芽が出ていたりとか落ち葉が積もっていたりというようなところですね。今のこの木のイラストの文章のほうには、吉中さんがおっしゃられたようなほかの木と連携することで森を作るとというような文章としてはそういう表現も使ってはいるんですが、このあたりはもう少し1の1のあたりからイラストとともにイメージを説明するというようなそういう感じのご提案ということで、そういう理解でよろしいですかね。重なるといえば重なりますけど、そのあたりは。まず1の1でイラストが出てきて、やっぱりここで説明をつけていくと連携して森を作るとというような話が出てきて1の3あたりでまた少しこの趣旨の集約図が出てくるので書くことがちょっとだぶってくるかなという懸念はありますが。一度ちょっとやってみますか。

福井氏 できてから考えるというのもありですね。ビジョン 2050 の、ちょっと若干難しい概念をイラストでもって、これがビジョン 2050 なんだと示すのがよいと思います。

吉中氏 先ほど長谷川さん最初のほうにおっしゃった1の1の部分は、動物園がというより社会がということですよ。社会としてこういうのを目指すというときに、じゃあ円山動物園は、その円山動物園だけで全部できるわけではもちろんないので、円山動物園が社会を変えていくのにこういう役割がみんなにもあるんです、みたいことが少しわかるといいのかなという。1の3のほうはまさに円山動物園の取り組みでということだと思うので、ちょっとレベルのが違う話なのかなと思う。

E n v このビジョン 2050 の1の1のところを、社会を主体とした書き方にするというのはそれでいいんじゃないかということですか？それでそのなかで円山動物園の役割みたいなものが少し盛り込まれるほうがわかりやすいということですか。

吉中氏 円山動物園が重要なパーツになっていくんですよということが分かるようにな

る。そんなことでしょうか。

E n v それをイラストを絡めながら表現をしていければこのイラストにもつながるし、社会のなかでも絵面的にもつながるしということですね。

佐藤氏 前回、たまたま実に見える部分があって、そこはただ飾りになってたんだけど、それで福井先生がこの実はなんかもっと具体的な中身にしたらどうですか？
ていわれた。動物たちはこんな暮らしをしますとか、子どもたちはこんなふうに暮らしますとかっていう、そういう具体的な実りの部分がこのなかにあったらいいんじゃないか？福井先生はそうおっしゃったような気がしてたんです。それで前回は成果という果実を实らせますっていう文言があったんですけど、今回それ消えてるんですよ。今回その文言が問題になったのはただ果実という言い方じゃなくてそこはやっぱり具体的に動物がこうなってますとか、子どもたちと動物園がこういう関係になってますっていうことが見えるといいよねって話があったので、今回はそれが具体化されて実になってるのかと思ったら実そのものが消えてたっていう状況ですよ。

福井氏 たぶんこれ（前回検討会の際に提示されたイラスト）を生かせばいいのかと思う。この木がたぶん円山動物園のイメージですね。この円山動物園という木がこの社会を実現するためにドンとあって、実ったものが周りに散らばるみたいな感じで。

E n v イラストはそうですね。イラストはいくらか、あまりごちゃごちゃすると印象にもよりますけど、イラストは結構いろんな表現がもちろんできるので、そこに実をつけて花をつけたりとか下にやっぱり芽が出たりとか、そのイラストでは木1本ですけど周りにもうちょっとたくさん木があっても構わないかと思うんです。もう少し広くとってそういうのを周りに絵で表現していくというのは可能かと思うんですね。

佐藤氏 ただあまり盛り込んだらなんのために図にしたのかわからなくなるということも出てきますよね。難しいですね。

E n v そのあたりはたぶんこっち側の図としてということだと思うんです。今おっしゃられたように、今のイラストを簡略化、むしろどんどん簡略化されていっているんですけども、ここにもし実とか花とかを描いたときにほかの文言との関係の整理が必要かなと。

吉中氏 もしここに実というか果実を描くということであれば、4ページ以降たとえば生物多様性を保全するっていう基本理念のなかにいくつかサブ項目があったんですが、生息地の補完とかも、地域生態系を維持するとか、こういうのがこの具体的な果実になっていくってイメージですね。

E n v そうですね。当初のころはもう少し短い単語、保全とかレクリエーションじゃなくて、このイラストのなかにももう少し長めの文章といいますか、というスタイルも試しにやってみたことあるんですが、ここにたとえば保全のところの葉っぱを大きくして実とか花とかをつけたなかにももう少し具体的に地域の生態系とかっていうのを書いていくことが可能だと思うんですけども、なかなかそれはそれで文章で細くなるのかなと思いますけれども。ちょっとそのあたりがなかなか難しいなと思って。維管束を表現するというのはさすがに無理だなということで却下しました。そしたら今吉中さんおっしゃられたように、1番のなかにももう少し目指す社会と動物園の位置づけとか関係みたいなものが表現して、そこにうまく福井さんのおっしゃられるようなイラストで意味づけができるようなもので補足するという感じでしょうか。

福井氏 このビジョン 2050 が目指す社会の成長を、円山動物園が支えて作っていくんだというイメージがここにほしい。文言にして、ビジョン 2050 でこういう目標を背負っていくとしているが、そのなかでとどまってしまっているの、やっぱり円山動物園がやっていくということを示したいと思う。それがイラストなのか、あくまで主体は円山動物園でこれを作っていくんだというイメージがほしい。

佐藤氏 この3段階は社会じゃなくて円山動物園がっていう主語で書き換えるっていうことですか？

福井氏 それを目指して円山動物園が努力、がんばっていきますよっていう決意表明ですよ、このビジョン 2050 は。社会の成長を円山動物園が責任をもって実現に向けて努力していくというイメージがあったらいいなと思います。

E n v 4ページ、それから8ページのそれぞれの大項目である保全と教育、それぞれの30年後ぐらいに目指すイメージとしてはいかがですか？ちょっともの足りないとか具体性がほしいとか。

事務局
(加藤園長) 世界的な広がりをもうちよっと描きたい。だから保全にしても生息地の環境を

守るにしても、これだと円山原始林とか北海道とかっていうふうにちょっととらわれすぎかなって気がする。ホッキョクグマやゾウについては、円山動物園は国外現地の保全にも積極的に参加をするんだというイメージがほしいです。

En v たたとえばですけど、具体的にミャンマーでこういう計画があるとかいうのがありますか？

事務局
(加藤園長) ミャンマーでは共同でゾウの研究をしている。また、カナダでは環境教育プログラムをマニトバ州の人と一緒にこれから作りつつ、向こうでの保全活動になんらか関わってこうという計画がある。だからちょっと表現がどうなるのかわからないが、国内であれば生息地で行われている保全活動に積極的に参加する的事をちょっと入れていきたい。

福井氏 そうですね。これ1回目、2回目の検討会でたぶん園長とか小菅さんがおっしゃって、自分も議論しました。なんで円山動物園がゾウやホッキョクグマを飼っているのかという意味。その意味をここに入れなきゃだめですね。それをわかりやすく。それちょっと抜けちゃってますね。

En v 「国外の」とかという文言を入れればいいですか。

事務局
(加藤園長) 国内外。

En v 国内外。

福井氏 たとえば、「なんで円山動物園がホッキョクグマやゾウの保全？」とかいうコラムのようなトピックを入れたほうがもっとわかりやすいのかもしれないですね。まさにそこは確信を突く議論かなと思いますね。なんで海外の動物園、海外の生息地の動物なのかと。それも入れたほうがいいでしょう。

吉中氏 この大きな矢印のところ、保全活動参加、欠かせない存在、交流拠点、そしてビジョンとなっているのですが、この保全活動の交流拠点としての要にというのが、2050年に目指す姿という意味ですか。

En v そうです。

吉中氏 交流拠点になるのが必要だっていうのは、それは賛成するのですが、むしろ、ここでいうと、左側の1つ目、一番上に書かれてある生態系の多様性、種の多様性、遺伝子の多様性というすべてのレベルで取り組んでいきます、みたいなのが2050年に目指している姿で、そのために交流拠点の役割を担っていく必要があるということかなという気がします。1つ、最初に書かれてあるすべて

のレベルで多様性の保全に取り組めますっていうところに、更に世界のと、地球上のすべてのレベル、すべての地域での生物多様性の保全に貢献していくんですみたいな、そのようなことを書いたほうがいいんじゃないか。

E n v たとえば、世界中のすべての野生動物の保全に貢献すると。

佐藤氏 そうはいかないかな。

E n v 書こうと思えばもちろん書けますけど、30年のイメージで。

事務局 (加藤園長) すべてというたいへんですが。でも、それぐらいでいいと思うんですけど。

E n v 世界中の。

事務局 (加藤園長) 動物園でどんどん生まれても、環境保全に貢献しないかもしれない。だから生息地の現地での繁殖に、やっぱり30年後にはしっかり結びついていたいという気がします。

E n v 前回も、福津さんいらっしゃいませんが、言いつばなしというかイメージがわからないというご意見もありましたけども。たとえば世界の保全に取り組むだと、たぶんいってることは大きいようで、具体的な目的があんまりないようなかという気もするんです。そのあたりはいかがですか。たとえば30年後になにを強化するとすればいいのか。ある意味、ホッキョクグマとかアジアゾウとかであれば、数年以内にでも取り組もうと思えば取り組めるかなとは思ってます。30年かけて世界のなかで、どういう位置づけというかですが。

事務局 (加藤園長) だから具体的に、30年後どういうイメージ。

福井氏 日本人の暮らしが世界の野生動物の生息地での現状とリンクしてるんだと、自分たちの取り組みや暮らしがリンクしているんだっていうことを、ゾウを通して、ホッキョクグマを通して学ぶ。そこから生息地の保全にも力を入れていく。ホッキョクグマにしてもゾウにしても個体群自体が今すごく少ないので、それを更に増やして、万が一のためにちゃんと緊急避難的に確保していくんだというようなことだけでも意味がある。たとえばホッキョクグマ、ゾウっていう象徴的な種だけでも、それがほかの動物園の活動や、そこに訪れた入園者の心を育つためにつながっていくとは思いますが。全世界の種を保全するとかではなくて、そういう代表的な種に対して力を入れる。たとえば自然環境を守るといったときに、一番上の頂点に立つ、イヌワシを保全したらその森が守られるというのと一緒に、そういうカリスマティックな種の保全を動物園がやっていくこ

とで、人の心や、水や空気を通じて世界へ広がり、必ずつながっていくと思うので、そういうイメージでいいんじゃないかと思います。

E n v おっしゃることはすごくよくわかるんですね。だからたとえば一文というか、文章として表現したときに、世界中の野生動物の保全に関わるのであれば。

佐藤氏 いいですか？すごく拙い手なんですけど、たとえば生息地の2番目の黄色丸ありますよね。動物園にはうんぬんっていう。この2行目の「生息環境の現状を理解し」の前に、たとえば国内外の生息環境の現状を理解して入れるだけでも、これは国内のことだけをいってるんじゃないよっていうニュアンスも出ると思う。

E n v おっしゃる通り、この生息地の左側の3ページのところは、もし国外とか外国のというニュアンスを強調したければ、たぶん国外のと、ここに入れていけば、一気にそういうイメージになると思うんです。

佐藤氏 国内外のとかっていう言葉をちょっと足すだけで、国のなかのことだけじゃないんだなって思う。ちょっとでも関心があれば、生態系っていったときに、ぼこって地球が頭に浮かぶ人もいれば、札幌市近辺しか浮かばないっていう人もいるけども、そこに国内外のっていわれたら、結構広い範囲なんだなっていう気がする。

E n v 僕は実はイメージとしては、右の4ページのほうの地域生態系のほうは、比較的地元のイメージで、左側の生息地のというのは、国外であろうがどこであろうが、本来の生息地というイメージで書き分けているつもりでした。

事務局
(加藤園長) だから、ここの矢印のところは、たとえば地球規模の保全活動の要にというふうにしてはどうか。地球規模での保全活動の要にという形に。

佐藤氏 今のままだと、2段階目と3段階目の違いがよくわからない。

福井氏 同じですよ、これ。

佐藤氏 ほぼ一緒みたいな感じがしてしまう。

E n v 地球規模の保全活動の要に、とかでいいですか？なんか具体的なイメージはありますか？

小菅氏 地球規模の保全活動の要っていうと、やっぱりあんまり枠として大き過ぎるんで、少なくともこの円山動物園と関わりを持つ動物、地域の保全活動に寄与るとか、そういうような表現ではだめですか？関わりを持つだけじゃなくて、

そこへ能動的に関わって行って成果を上げるというところまでを、30年後の目標にする。今一生懸命飼育コレクションプランを立てていて、なんでオランウータンを飼育するのかというところを組み立てているわけだから。

福井氏 飼育することの責任、ゾウやホッキョクグマを飼育している責任は生息地の保全につなげることというイメージを、飼育動物、たとえばゾウあるいはホッキョクグマの展示されてるようなところにもうちちょっと入れたほうがいいのかと思いますね。ホッキョクグマが展示されてる、泳いでる姿とかと生息地が結びつくようなイメージがあったほうがいいかもしれません。写真だけぱっと見ると、円山の原始林を保全していく活動みたいな感じだけになっちゃってるので。あんな世界一の誇るべき立派なホッキョクグマの展示施設があるわけで、なんでそれが必要なのか。それは現地のホッキョクグマのために、これが役立つんだっていう強い決意ですね。

事務局
(加藤園長) 逆にここにエゾリスじゃなく、ここにホッキョクグマとかオランウータンがいればいいですね。

E n v そうですね。円山動物園が既に外国で何かしら活動している写真があれば一番いいです。

事務局
(加藤園長) それがあれば一番いいけど。でも30年後のことを語ってんだから、別に今やっなくていいよね。

福井氏 展示施設の写真が必要なんじゃないですか？ここには展示してる様子が。

事務局
(加藤園長) だから、うちのホッキョクグマであったりとか。

福井氏 これ（地域の保全活動など）だったらどこでもできちゃうから。円山しかできないっていうことを、円山の持つてる展示施設をここでアピールしなきゃいけないと思います。

E n v ですがやっぱり野外活動のほうがいいのかと思うんです、趣旨としては。

福井氏 それは、この裏の日本財団とかで書かれてるし。

E n v ホッキョクグマの野生の写真とかですね。

事務局
(加藤園長) ホッキョクグマの野生の写真とか。

福井氏 動物園の存在の根本は、あくまでやっぱり動物の展示なので、そこに人が来てくれてすべてが始まるので。野外の環境保全活動なら、別に円山動物園だけでなくほかでもできるわけだから。

E n v すみません、もう 1 回戻りますけど、2050 年のビジョンとしては、ここはやっぱり表現が、関わるであったり取り組むだと、あんまり目標っぽくはないかなとは思ってますね。

事務局
(加藤園長) 短くする努力はしなきゃいけない。だから飼育展示動物の生息地の保全活動の要っていう、要はそういうことだよ。

E n v ということは飼育動物以外の保全にはあまり関わらないという感じにはなるのかと思うんですけど。

小菅氏 関わらないっていうじゃない。具体的には関われないということ。

事務局
(加藤園長) 関われない、いないから。関わりようがない。

小菅氏 だから、そういう意識で飼育してますよということが伝わればいい。

事務局
(加藤園長) だから関わるものは、必ず飼育してる。

E n v それで、いかがですか？そこは。関わらない。

福井氏 でも、それ関われるんじゃないですか？

小菅氏 いや、できるよ。

福井氏 関われるんじゃないですか？

小菅氏 その周辺があるからね。

福井氏 それが広がって、このニホンザリガニの活動とかオオワシなど猛禽類の保全活動とか。希少な両生・は虫類の繁殖・生態研究とか。

E n v めくっていただいた 5 ページのほうは、もうちょっと希少種とか地域個体群の話なんですけど、むしろ円山は、コウモリであったりとかニホンザリガニとか関わってるだけあって、飼育の有無の関わらず、もっと保全の中心的存在になるということが重要なかなというのを、職員の方々も考えてるんですね。

小菅氏 海外の話はやっぱり、ある種にポイントを絞って。要するにこの動物園で飼ってるということは、だいたいアンブレラ種なんだから、そこの保全に関わってるということは、その地域全体の生息地に関わることだからね。

E n v そのあたり、いかがでしょうか？

吉中氏 書きぶりだと思うんですけど。まさにアンブレラ種とおっしゃいましたが、飼ってる種の生息地を守るというのが誤解のないようにうまく伝わるように、その種を守ることで、生息地の環境全体が守ることにつながるんだよというのが、はっきりわかるようにしとかないといけない。飼ってる動物だけ見てるん

ですねと言われちゃうと、ちょっと嫌だなという気はしますね。

事務局
(加藤園長)

だから生息地の環境ですかね。たとえばホッキョクグマだけ守ったって、ホッキョクグマを守れないわけで。アザラシ守らないとホッキョクグマも守れないわけだから。

佐藤氏

そしたら温暖化をなんとかしないとホッキョクグマを守れないですよ。

事務局
(加藤園長)
吉中氏

そういうことなんです。そういうのをワンフレーズとしてどう表現するのか。2050年の基本理念それぞれが目指すものをはっきりさせたほうがいいんじゃないかなって気がするんですよ。この2の1で最初に書かれてある2行が、2050年に目指す方向だとすれば、これに国内外のっていうのが入るといいと思います。国内外のすべてのレベルで生物多様性の保全に取り組みます、貢献します、みたいな。そういうことが2050年には円山動物園で行われていますというところを目指すということにするのであれば、それがこの矢印のところにも入ってきていいんじゃないかなっていう気がします。国内外の生物多様性の保全、保全への貢献みたいなのが2050年のビジョンで、そのためにこういうステップを踏んでいく必要がありますよってということなのかなと思う。それと、その細かい話にもなりますが、この矢印の下に書いてあるなかで、円山動物園は2050年までに保全活動の中心的な施設となりますって、書いてあって、間違っていないと思うんですけど、こう書きちゃうと、やっぱり円山は地域のことでいいってんですか？というふうに、なんか誤解されちゃうんじゃないかなって気がするんですよ。世界の保全活動の中心的な施設となるっていうのは、ちょっと書き過ぎだと思いますが。

事務局
(加藤園長)
吉中氏

それはちょっと無理だ。

無理だからこそ、こう書くと地球のことじゃないんですよ、札幌市のことだけいいってんですか？と捉えられる気がするんですよ。そこにちょっと気をつけたらいいと思うのです。2050年までに国内外の生物多様性の保全に貢献するとともに、そこでいろんな人が来て、いろんな活動の交流する場にもなりますみたいなことを、ちょっと書き分ける必要があるのかもしれませんが。

E n v

それは地域的なものと世界的なものとの話をするため。

吉中氏

地域的な交流拠点となっても、そこで交流する中身は、この地域の生態系だけじゃなくて、世界のことも交流していいと思うんですけど。それをもう少し丁

寧に書いたほうがいいんじゃないかなと思う。そうでないと、なんか伝わりにくいんじゃないかな。

E n v 世界の中心になると書けるのか。どのあたりの中心を目指すのかということだと思うんですね。確かに「世界の」と書かない限りは、「地域の」かなとは思いますが、かといって小菅さんおっしゃるように、ほかの外国の動物にも当然関わって、でも一方で地域の中心ぐらいにはなってくれよ、という期待もあるかと思えますけど。

小菅氏 だから地域で、地域の自然を維持するための活動をするとともに、そこから、ちょっと超えて、世界の環境にも寄与できるような地域活動の要になるっていうようないい方だったらいいんじゃないですか？

吉中氏 ちょっと丁寧に書いたほうがいいと思うんですね。18 ページに海外との協働連携っていう項目があって、円山は札幌の交流拠点として更に発展していくなかで、地域で活動してる人たちが交流するとともに、世界とも交流する窓になるんです、みたいなのが目指す姿かなというふうに思いますね。

E n v 地域の要であるとともに世界にも貢献するみたいな、そういうことですかね。ニュアンスをもう少し具体的にという感じですか？要として、地域では中核になっている。地域だけではなくて世界にも貢献していくという感じでしょうか。

福井氏 地域が世界とつながっているという、そのつながりをまずは理解してもらうような導入のための文言が必要かもしれないですね。地域で円山動物園がホッキョクグマやゾウを展示することの意義を示す必要がある。現地に直接行って生息地の保全活動もそうですが、ここで展示してそこでメッセージを発信すること自体が、「地域の子どもたちの心を育て、温暖化のことを考え、生息地を守っていかなければならない。こんなすばらしい種が絶滅しそうになってるから、なんとかしなければ、今日から電気節約しようよ」みたいなところをつながりとして展示から生息地の保全へっていうのを理解させるっていうことが、円山動物園の使命なんじゃないですか。あくまでも展示が基本にあるので、動物園に来てもらわないといけないので、来てもらってホッキョクグマ舎を見たときに、現地の生息地のホッキョクグマの氷が解けてアザラシが捕れなくなる、そういうようなイメージしやすくして、今日から気をつけようと、行動に移す。そういう行動をサポートしますよっていう宣言をここでしなきゃいけないん

じゃないですか。

吉中氏 それは、教育、次の2の2のところの終わりで、それに則したことで書いてある。

吉中氏 この2の1と2の2とが、うまくつながるようなストーリーというか、説明があるといいような感じがしますよね。今の2の1はまさに、その動物園を飛び出して、現場、現地の生息環境を国内も国外も含めて、この保全に貢献していくんです、みたいな文言があつて。

佐藤氏 でもそれ、階層のところに書いてある。

吉中氏 それのために、動物園の展示はどうなるの？みたいな2の2に書いてあるのかな。

佐藤氏 でも、よくよく読んだら、今おっしゃられたようなことは、この緑のカエルさんのところに書いてある。

佐藤氏 ほぼ書いてあるんだけど、ここに産業動物とか畜産動物が入ってきてるから、なんか話がぼやけてる気がするんですよね。たとえば、この産業動物と畜産動物を切ってしまうと、野生動物を飼育する動物園は、生息地の保全、野生下での個体群の維持に貢献することが求められていますっていうふうに、わかりやすくなる気がする。

Env 貢献しますとかにします？

佐藤氏 というようにすれば、自分から積極的にやってくんだってふうに伝わり、今おっしゃられていたような内容がフォローできるのかなという気がしますけど。イヌとかネコとかウシとかブタさんには悪いけど、そこはちょっと外れてもらったほうが、話の趣旨がはっきりする気がします。展示するだけでなく生息地の保全、個体群の維持に貢献するっていうことですよね、今まで話されてきたことは。軸はちゃんと書いてあるんだけど、若干わかりにくい書き方になっている。

Env 今、福井さんがおっしゃられていた、展示を通しての保全の貢献が、要するに教育であったり普及啓発かなと思うんですね。まさに、それも大枠としては、その上に自然を大切にするような社会をとというようなことなので、教育、普及啓発も、7 ページ、8 ページにあっていただいて、最初のところからまず伝えるメッセージとしては、展示を、飼育してる動物を通して環境に思いを馳せて

もらうというところから入っているわけです。ここも先ほどと同じで、2050年までのイメージとしては、もうちょっと世界的なものをということかなと思いますが。たとえば、世界の、外国の生物についてもしっかり普及啓発をするという感じかと思うんですが。それが30年かけてやるような目標としては、どういものがありますか？

事務局
(加藤園長) 結局は、すべての人が自然とともに歩む社会になるための教育なわけですよ。ね。

En v はい。そうですね。

事務局
(加藤園長) そういう意味では、30年後にはぐるぐる回るけど教育しなくていいようになるよね。

小菅氏 いらなくなるよね。理想論でいえば。

吉中氏 もう人々の環境に対する意識が、教育される必要のないレベルにまで達してま
す、こういうことなんですよね。

En v その場合、円山動物園は30年後、どういう、何を目指せばいいですか？もう
なくなります？ということ、どうですか？

事務局
(加藤園長) やめます。

福井氏 生きた教材として持続的に学ぶ機会を提供するっていうことは重要なんじゃない
ですか？生きた教材を。

事務局
(加藤園長) 子どもはどんどん生まれてくるわけだから、その子たちがそれを学ぶ機会は、
ちゃんと設けておかななくては。

朝倉氏 ちょっとすみません。先ほどの多様性の部分もそうなんですけども、ちょっと
職員プロジェクトでも気にして、考慮してた点について説明させていただけた
らと思います。職員の中で話し合ったことの情報提供といいますか、以前、う
ちの本田のほうからも説明させていただいた部分でもあるんですけども、職員
プロジェクトで本当に今皆さんがご指摘いただいた通り、国内だけじゃなくて
国際的というか、世界的に見るという視点をどう入れるかということをお話して
います。今、諸外国であつたりとか関西でも、自治体のお金を世界の保全、自
分の地域以外のところの保全にお金を使うというのはやめろというような声
がどんどん出てきてるのが現実です。その声は、これから近い将来、札幌でも
出てくるかもしれない。構想を出したときに、どういうことなんだっていうよ

うな声 que 起る可能性もあります。そのなかで、どういふふうな書き方をすればいいか。最初から強く、もう世界中の保全に私たちは力を入れますっていったほうがいいのか、それとも、大事なことだから、求められてることだから私たちとしてはやりますという程度にするのか、そのへんはどいふ書きぶりにすればいいのかなっていふのは、職員プロジェクトのなかではちょっと答えが出なかったところではあるのですね。本当にこれは、この動きというの、近い将来指摘されるころだと思ひますので、やらなきゃいけない意義というのを、まずはこのなかには載せておくべきかなというふうには、職員の中からは出ておりました。

事務局
(加藤園長)

たぶん、その部分は、やっていきますっていふのと、もう一方、やるための仕組みづくりを進めますっていふような書きぶりをしなきゃだめなんですね。もとより、市税で海外の保全をすることは、それは無理なんで。寄付を集めるなり、なんなり仕組みづくりをしますっていふことも、ここに書いてあげるのが一番かなと思ひます。

朝倉氏

そこまで大きく書くとすると、そこまでのことを書かないと、なかなか難しいのかなというふうには感じたところではあります。

事務局
(加藤園長)

大丈夫。こないだのホッキョクグマシンポジウムで、そういう仕組みを作りますっていったから。

小菅氏

それ重要なところですよ。市税を、市民のお金をそういうところにやると、必ず、それは札幌市民とどのような係わりがあるのかっていふ話になるわけだから。そこはやっぱり今、園長が言ったように、そういうことに関心のある市民をたくさん増生して、その人たちの意志でたとえば寄付を集めて資金の一部にするということが必要になるわけ。そういうことが、きちんと書かれてないと、朝倉君は難しいというふうにいってるのかな。

朝倉氏

そうですね。そういうところでいふと、逆に次お話しただく教育のは、本当に世界を視野にしてできることでもあるんですね。教育活動というの、もう大きな視野を周りの子どもたちを中心としながら大人たちにも伝えるということがあるので、その次の部分ではわりと大きめに書いてもいいかと思ひます。

小菅氏

保全のところは、しっかり寄与しますという文言を入れとかないと。

保全に関わりを持ちますでもいいかもしれないけど、やっぱり、動物園がホッ

キョクグマなり海外の希少な動物を飼育してることへの根拠が薄くなるような気がするんですね。

E n v そのあたりは表現の問題だと思うんですよね。寄与するとか貢献するとか、そういうぐらいの書きぶりにするかということかと思うんですよね。

事務局
(加藤園長) 貢献するために仕組みづくりを進めるっていうところまでは。

E n v そこは進めるですか？仕組みを作るじゃだめですか？

事務局
(加藤園長) 作るでもいいよ、作ります。

吉中氏 または、どっちから見るかなんですけど。だからやっぱり飼育して動物を展示する以上は、その向こう側のことも、これからはやらなきゃだめなんですっていうような考え方なのかなと思いますけど。

佐藤氏 教育にも関わるけど、お金を使うっていうことだけじゃなくって、意識をそっちになんとか向けていけないかなっていうこともありますよね。

E n v かなり時間をかけてしまったんですけど、もう少し聞いてもいいですか？たとえば教育の部分で、30年後ぐらいを目指して、環境教育に関しては世界的な視野で、そのレベルで貢献する仕組みを作りますというぐらいの目標というのはどうですか？

事務局
(加藤園長) 教育は仕組みを作るんじゃなくて、教育を行う。

E n v 行う、ですか。それはただ、30年後ぐらいのイメージなのかなということだと思うんです。もうこのへんの真ん中に書いてあるところと変わらない気はするんですよね。

小菅氏 今からできる感じですよ。

E n v もう明日からでもやってもらいたいっていうことだと思うんですよね。なのでやっぱり、30年かけないとできなさそうなものが、いくらかの目標かなと思うんですが。そのあたりが30年というものをイメージとして目標にしていく表現として、ちょっと難しいところなので、ぜひそこは考えていただければと思うんですが。ある程度何か達成するものとか、作りあげるもの、あるいは何か成果として、こういう成果を30年かけてもたらすとか、そういうことかなと僕は思うんですけれども。

吉中氏 30年後に円山動物園に行ってみたら、いろんな人が、いろんな団体が、いろんなパートナーが、企業もNPOもNGOも学校もみんなが環境教育をやっている

るというイメージで、それを普通のようにやっている。ずっとそれが永続的に続いていくみたいな感じで回っています、みたいなのがイメージする姿かなという気がするんです。だからそのときに、それだけ回っているということは、みんなが環境教育の重要性がわかっている、次の世代にも伝えないといけないよねというのが、自然な形として社会のなかに広がっている。この自然と共生する社会が 2050 年にできているとすれば、それが目指すところなんじゃないかなという気がしますけどね。そのために、いろんな仕組みが必要だったり、ここでいっているフィールドミュージアムみたいな仕組みで円山中心に動物園の内も外も含めて、そういうことができ上がっているというのは、1 つの具体的な案というか、アウトプットかもしれない。2050 年、全体のビジョンが、自然と共生する社会の実現とっているんだから、そこで、じゃあ、環境教育みたいなのがどういう姿で回ってんのだろうか、なんですかね。

事務局
(加藤園長)

仕組みなのか調査・研究なのかというのは、役割分担はあるんだけど、2050 年には円山動物園のなかに、環境教育を専門にやるチームができていて、そのなかの何人かは大学と兼務をしていて、円山動物園のフィールドにいろんな研究をして、その人たちが教育活動をするという姿になっていなきやいけないですよ。今のように飼育係がやるのも大事なんだけど、それを専門にやる人が動物園のなかにチームとしてでき上がるという姿なんですね。

E n v

環境教育を専門にやる部署を作るというのは、結構具体的なステップアップのなかでも具体的な表現かなと思います、それが 30 年後だとちょっと遠いですがね。30 年後の目標に円山動物園内に環境教育の専門機関を作るといいます。

事務局
(加藤園長)

その専門機関はレベルの問題もあると思う。そこが、教育研究機関としての専門チームみたいなものかもしれない。

吉中氏

それと 2 の 1 と 2 の 2 は目指すところがわりとなんか似ている。1 つにまとまっていくといいなという気がするんですよ。保全教育施設みたいな。保全教育センターみたいな。そんなふうに円山動物園はなっていくというのが、結構面白いかなという気がしますけどね。

福井氏

円山動物園だけで、それらすべてを完結することは無理なので、やっぱりつながりを意識するような書きっぷりがいいんじゃないですか。そこで少なくともやるのが広がるという。自分のできることの主張も少し明確にするのがよいと思

います。さっきの、吉中委員長がおっしゃたような保全と教育のほうで、この矢印の書きっぷりを関連させたようなシンプルな文言で保全センターであり、博物館的なミュージアムセンターであり、センターへみたいなの。

E n v なんとなくそういうイメージではあるんです。保全もやっぱり円山だけでは無理なので、そういうのは交流拠点であったりとか、活動拠点というイメージなんですね。で、教育も、フィールドミュージアム構想みたいなものは、やっぱり円山だけではなくて、中核にというような感じなんです。だから、おっしゃるように世界の施設になるというところなのか、地域のいうところなのか、そのあたりがはっきりしない。

福井氏 まず地域で、一定のその立場を作って世界へ広がっていくみたいなの。枝葉を伸ばしていく先が世界だということ。

吉中氏 3の4の書きぶりを少しそういう面で強化して、連携、協働みたいなの。方向性は、じっくり読んでいくと、国内外の動物園、水族館と協働連携していきますとか、項目でも海外との協働連携と書いてあるんですけど、もうちょっとこのへんを最初の、力を合わせてともに未来へというところで、何を目指していくんですか？みたいなのがいい。理念とは違うので、2050年の矢印みたいなのまで書く必要はないかもしれませんが、もし地域の核ともなりつつ、やっていることは実は世界を視野にとか等をやっていくんですよ、みたいなのがあればよい。

E n v イメージとしては、だから保全のほうも教育のほうも地域の核でありつつ、世界につなげていくような感じのものを、保全と教育で6つのそういう感じのグループにして、ここの連携のところはそのための連携のあり方という感じのつながりですね。こんな感じで。朝倉さん、そんな感じで。

朝倉氏 教育は世界的というか、地球的視野、世界的視野を持てる子どもたちを育てるというのが必要になるかと思えますけど。

吉中氏 世界につながらないんだったら、外国の動物を飼育している意味がないよね。

朝倉氏 そういうことです。それがきっかけです。

吉中氏 そこが入り口になる。調査研究のところは、動物園がするだけじゃなくて、たとえば、動物園をフィールドに学生が論文を書くような場になるみたいなのがあるといいですね。

福井氏 この調査研究の技能を磨くというところはまさにその通りなんですけど、なんか最初からいきなり外部から積極的に講師を招聘してみたいなことを書いています。外部の講師を招かなくても、円山動物園のなかの動物専門員をはじめとする研究自体が他にはできないことを立派にやっているわけです。まずここで動物園の研究の成果・意義を、これまでの歴史も多少振り返って、しっかりと説明したほうがいいのかなと思いますね。たとえば動物園が、これまで野外の生態学者が、到底観察し得なかったような行動観察を飼育下の動物を踏まえて調べた研究成果が、野外の野生動物の保全にフィードバックされたという例もありますから。動物園のなかでしか成し遂げられなかった保全研究というのも成果としてあるわけです。あとは動物園がなかったら絶滅した種類もたくさんいるわけで。こういう動物園でしか成し遂げられなかったことをアピールして、それを円山動物園はこれからもしっかりと責任を持ってやっていくんだと示すべき。それにプラスして、もっと野外の生態学者などの研究者と連携して、補完しながら、最終的には保全に結びつけていくという意識をもっと強く、これから持っていかなきゃならないんだというようなことをここでいわなきゃならないのかなと思います。

E n v わかりました。1つにはセンターラボのどこあたりにも少し取り組みで、今、福井さんがおっしゃられたような具体的に成果が挙げたところを説明しつつ、今の福井さんの話ですと、要は円山はこれまでもそういう業績というかがあるので、引き続き、より一層とか、そういうことを先に書いてという感じですかね。更にそれにプラスアルファするために外部からもというような感じにしていく。

福井氏 リンクしていこうということ。

E n v まずは自分のところをより一層高める、とかみたいなどころまでを先に書いてということですよ。

福井氏 そうですね、いままでやってきたよと。そして、引き続きやっていくよと。更にもっとつながりをもっていくよと。

E n v ここはもういいかなと思うんですが。

事務局
(加藤園長) その前に2の2ですが、娯楽という言い方はしたくない。レクリエーションという言葉については、3の2、この先30年後というふうには、やっぱり再創造の

レ・クリエーションという意味で説明したい。楽しく学んでもらうというのは大事なんだけども。

E n v 何の再創造ですか？

事務局 (加藤園長) 人間性だとか。

E n v 人間性。

事務局 (加藤園長) 関係および意識だとか。そっち側に寄った中身にしたいなと思っている。

小菅氏 娯楽という単語はなんか、あっはっはっと笑うイメージというような気がするんですよ。

事務局 (加藤園長) 憩いならまだいいんだけど、娯楽になっちゃうとやっぱり違うかな。

E n v たとえば本来、意味をそれこそ辞典で調べたりとかするところというのが出てくるんですが。娯楽や保養といった意味がありますみたいなことを書かずに、レクリエーションにはリ・クリエーション、再創造という意味もありますみたいな感じで、最初からそこに絞って書くという。そういう語源から成り立っている言葉ですというような感じ。

小菅氏 動物園もたぶんそこだったと思います。19世紀の話ですからね、このレクリエーションといったのはね。いわゆるレクリエーションという言葉の、語源であるリ・クリエーションのほうだと思うんだよね。

E n v そもそも、そっちが言葉の原点で、そこにも立ち返ってというようなそういう感じの説明の仕方にするというですね。

事務局 (加藤園長) そうです。割り切って。

福井氏 従来、日本の動物園の社会的な役割が「娯楽・レクリエーションと自然保護、教育、研究」とありますが、それにとらわれず、この娯楽という概念ではなく、円山動物園が考える「リ・クリエーション」、来てくれた人が動物とともに過ごす時間を心地よく感じる空間だというのは強調していくことが大切だと思います。

事務局 (加藤園長) 動物園は最終的にはないものにしたほうがいい。

福井氏 動物のいる空間をもっと心地よく感じて、自分が人間であるということを意識する場。人間というのはこういう生き物なんだと。対比しないと理解できないわけですから。そういうことを意識してほしい場だと考える。

事務局 (加藤園長) 憩いの場で自分を取り戻すということもあります。

福井氏 家族との交流とかそういうのもあるんですかね。

事務局
(加藤園長)
E n v 娯楽と言っちゃうと、ただただ楽しいねというふうな役目になっちゃう。
まだ細かいところはたくさんあるかと思いますが、今回の新しく変更されている大きなところとしては、コレクションプランのところと、それから行動指針のところかと思いますが、このあたりについては、もう少し章立てといたしますか、大きな項目として体制というふうに区切ってあります。そのうちの1つ、4の1がコレクションプランで4の2行動指針というふうに分けてありまして、表現というか書き方もそれまでの部分とは、ややもう少し硬めといたしますか、そういうパートの位置づけるということです。

吉中氏 この言葉がいいのかどうかかわからないですけど。行動指針のなかに、動物園という項目とそこで働いていらっしゃる職員というのを分けるというのは、まずちょっとわかりにくいのが1つと、動物園と書いてあるほうにも、行動指針的なものと、いわゆる体制をどうしていくみたいなものが混在しているような書き方ですね。組織、人員配置をどうするかというようなこととか、予算措置をどうするか、そこをちょっと整理したほうがいいかなという気がします。確かに2050年を見据えて、これからやっていくのには、こういう動物園の管理体制が必要なんですというのはどっかで明確に書いてあったほうが良いと思うんですけど。それは行動指針じゃないのかなという気はするんです。

E n v ここは、たぶんほかの前半の部分との関係というか兼ね合いかと思うんで、先ほどから出ているような具体的になんかこういう専門の部署を設立しますとか、こういう役職を配置しますとかみたいところは前半のほうに必要性というか、取り組みをこういうことを目指しますというのがあって、このあたりに具体的にはそういうところを設けますとか、どういうこういう体制を整えますとかそういうことかと思うんですが。ここも書き方としては、運営体制の検討を行いますとか、こういう表現でしょうか？

事務局
(神課長) ものによるんですよね。動物園だけで決められることははっきりいえるんですけども、ほかの教育とかにまたがるようにについては、検討しますぐらいしかちょっと言えないかなと思う。ちょっとこれはいろんなものが入り込んでいるのが確かです。自分達ができるものと巻き込まないといけないものがある。動物園職員のところは、本当に行動指針に近いような中身をこれからもっと入れ込

みますし、もっと具体的にお客さまにどうやって接したらいいのか、どういう説明をするのか、そういったことをもっとはっきりと書く予定でおります。まだ、具体性がないといいますか、整理検討の段階です。

タイトルと項目をちょっと整理するということですね。

E n v いかがですか？

吉中氏 なんかちょっと落ち着きが悪い感じがするんですよね。市民、企業、各種団体、外部研究機関というところで、こんな考え方でやりましょうねというのをここでは書いてある一方で、17 ページ、18 ページにちょっと別の言い方で同じようなことが書いてある感じがするので、それをどう整理するのかなというのがわからない。

E n v 吉中さん、おっしゃられた部分で、連携のところにもやっぱり連携をする対象として、同じように市民とか大学研究機関とかというのが出てくるので、ここでは1つは主語が入れ替わっているということだと思うんですね、なので内容がかなり重複して近いものであっても主語を変えて表現をする必要がここにあるのかということが1つかと思います。左側の骨子円山動物園の項目に関しては、主語がかなり同じ、ほかの前半のページも、基本的には動物園が取り組みますとか、こう進めていきますということなので、ここは主語としては同じだけでも、中身はもう少しなんかこういう体制のどこなので、体制を整えますというところで中身として書き分けないと重なってしまうということなのかなというふうに思うんですけども。そのあたりはいかがでしょうか？これは、このページがこれくらいの文章埋まるぐらいの中身になりそうな感じの予定でしょうか？

事務局 (神課長) 1 ページ、2 ページまで、ちょっとまだそこが決まっていない。1 枚のまとまりにするのであれば1枚ですし、足りなければ2枚になる。

E n v たとえば、右側の市民、企業、各種団体、大学研究機関というのは、ここは更に項目として、増えたりしますか？

事務局 (神課長) 書き方としては動物園と職員のところは厚めにして、そのほかについてはどこまで触れるかなというところで考えていますので、先ほど、3の4ですか、連携のところともやっぱりちゃんとそこは書き方というか、整理していかないといけないかなと思います。

E n v この検討部会としては、この先まだ文章は増えていきますということですけど、今、ここでご意見をいただいたり、こういうことに関しては議論いただいたりしたほうがよさそうなことはありますか？

事務局
(加藤園長) 市民とか企業とかのところに、どれくらい突っ込むべきなのかというところもご議論いただければなと思います。

福井氏 重複して必要ですかね？ 行動指針とこの連携のところに。重複していますよね。これは、まず書かなきゃいけない項目なんですかね？

西野氏 行動指針なので、動物園の行動指針であって、市民の方、企業の方、団体、大学研究機関というのはちょっとおかしい。

事務局
(高橋係長) ここでは、やっぱり動物園も役割を果たして、いろんな連携のこともあると思うんですけども。やっぱり市民1人1人も役割があるだろう。企業1人1人の役割があるだろうというところを書きたいです。なので、交流だとか連携というよりも、ちょっと質が違います。この文章は私が書いたんですが、まだどういうふうに表現していいのかがよく分からないのです。やっぱり市民も1人1人が自然環境、生物多様性の保全に取り組んでいかなきゃいけない。企業も1つの企業がこの文面にある通り、企業活動自体がやっぱりそういった生物多様性の保全を壊しているとはいわないけども、活用してやっているんだから、取り組んでいかなきゃいけない。そういった表現はしたかったんです。それが行動指針という形にまとまるかどうか分からなかったんですけども、市民や企業の行動、それを動物園が定めるのもどうかと思うんですけども、やっぱり僕らは動物園だけしかできないので、その思いを伝えたいというところだったんです。

福井氏 そうであれば、相互に連携して取り組む必要があり、以下のような役割や思いを期待しますとか、願っていますとかにしたらいいいのでは。ともに作っていきましょうみたいなことを言ったほうがいいんじゃないですかね。

事務局
(高橋係長) 更には、いつか動物園条例ができ上がったときには、やっぱり条例上にはそれぞれの市民の役割、企業の役割、そういったものが掲げられてくると思いますので、それを見据えた表現として、ここに挙げていきたい。

E n v ここはどれくらい、動物園を抜きにしてといいますか、社会的な達成を目指して、それこそ2050年に人と自然とが共生する社会というのを目指して、動物

園との関わりも抜いたレベルで目指す、たとえば、市民個人個人とか。

事務局
(高橋係長)

そうです。本当に主体的にどうするかというところ。それが、われわれとしては書きたいんですけども、どこまで書けるのかというのは、今園長がおっしゃったように、ちょっと皆さんのご意見をいただきたい。

E n v

このなかには、円山動物園と共有し、であるとか、円山動物園を活用の場ということ、円山動物園を使いなさいとか、使ってくださいというのも入ってきますけど、その前段として、そもそもどう行動するかというところをどこまで書くべきかということですね。いかがでしょうか。

事務局
(高橋係長)

ごめんなさい。抽象的で申し訳ないです。自らが、市民自らが、企業自らが、事業者自らが、各種団体自らがというところをうまく表現したかったんですけど。

E n v

こういう項目、文章があるというのは、この先いろいろこういうのを使って手続きをとるか、進めていく上で、この表現が活用される。

吉中氏

むしろ、この3の4のところに責務、期待される役割みたいなのを、頭出していけば、それでいいんじゃないかなという気が私はするんですけどね。行動指針のほうにかかってくるのではなくて。

事務局
(高橋係長)

溶け込ませてしまいますか？

吉中氏

溶け込ませちゃう。たとえば、市民や民間団体との協働連携の最初に、市民にはこういうことが期待されていますみたいなのがあって、円山動物園はやっていきますというのにつながっていくと。

福井氏

吉中委員長の今おっしゃった通りだというふうに思うんですけど。行動指針として書かなきゃいけないんだったら、ここにそういう書き方をするしかないですよ。そういうことですよね、ルール上。書かないと次につながらないというものですよね。

E n v

あまりこのあたりは詳しくなくて、よくわからないんですけど、直接には書けないかもしれませんが、すごく砕いていってしまうと、資金的な援助をしてくださってあたりとか、そういうような感じのことをにおわせたりとか、そういうことになるのか。

事務局
(神課長)

そういうのも当初もあったんです。市民、企業については。今、いったん動物園のところに基金は入れ込んでいるんだけど、やっぱり市民、企業のところにもそういったものをどうやって入れ込むのかなというようなことで、最初

は作っていったというのがありますし。あと、条例は動物園が作るものじゃなくて、市として作るものですので、じゃあ、条例をどこで整理していったらいいかなという迷いがあるなかで、すべての関係者をいったん出していたらちょっと迷って。実際、条例のところはまだ入っていません。

E n v それはここに書き込まなくていいんですか？条例化を目指していくということですが。

事務局
(高橋係長) 一応、法的整備を視野に入れたというところで、あまり明確には書けないですけど、一応ひと言だけは入れておきたい。動物園の丸の5個目です。

福井氏 あと、特別会計。ちょっとわからないですけど、動物園の飼育動物の、より質の高い健康管理や、魅力的な動物園に発展していくために何かそういう整理を必要とする、みたいな書き方のほうがいいんじゃないですか？動物園にとって、飼育動物にとって、そういう、より制度的な仕組みが必要なんだと。

E n v 円山動物園が、という主体の書き方でもあれば、動物園はこういう援助を必要としていますとか、こういう整備を必要としていますというような書き方というようなことになりますか。

福井氏 そうですね。円山動物園は動物が、あるいは飼育の専門員が必要としてるんだということ。より質の高みを目指す、そういうものがこれから検討課題に入ってくる、ということですかね。これを見たときに、独立行政法人は会計制度の移行とか法的整備が必要なんですというのは、あんまり誰にもわかりませんよね。

E n v すみません、あとコレクションプランについても、このあと、考慮すべき項目として4つ説明がありますが、これももう少しこの紙面が埋まるように具体的な内容が出てくるということですが。

事務局
(加藤園長) 象徴される動物種の話が入る。

E n v それは何か例として、こういう種のたとえばこれとこれということで説明する。

佐藤氏 データ収集中っていうお話あったんですけど、これはもうまとまったものですか。

事務局
(加藤園長) 個別に1個1個ばらばらに載せるよりは、もうちょっと大きな話にして、教育の目的であればこういう種が必要とかっていう形で、どんどん載せたほうがいいんじゃないかなと思っている。

佐藤氏 円山動物園にいる動物について、データはそろった？

事務局
(高橋係長) そろってます。

小菅氏 行動指針の最後のところに、こういう目的で対応できる職員を配置しますっていう記載があるんだけど、こういうところで新たな職員の配置ということを書いておく必要があるとすれば、たとえば、飼育動物の栄養管理を総合的に担当する動物栄養学と、動物心理学の専門的職員を配置するというような文言も入れとくほうがよろしいんじゃないでしょうか？

福井氏 すみません。前回もたぶんいったと思うんですけど、ちょっと見当たらなかったんですが、飼育動物の個々の個体の情報を開示して、市民と情報共有して、市民に開かれた動物園になることが必要です。この検討部会の設置の成り立ち、つまりマレーグマの問題にルーツを発するということから考えたらすごく大事なテーマなのかなと思うんですね。あんまりそういうことが宣言されていないように思います。

事務局
(神課長) それは入れ込みたいと思ってます。行動指針のところに入れるのかなと思ってます。まだ入ってませんが、福井先生の話を読み返して、ここに入れないといけないなと思いました。

福井氏 市民にもっと親しまれ、飼育動物が自分たちの動物なんだと大事に思ってもらうためにも必要と思います。オープンな動物園ということです。

小菅氏 ちょっと気になる点があるんですが、15～16 ページです。最上の暮らしというところですが、最初に健康のことが来ているのですが、最初は、自然で快適な生活があって、それで安全な健康と、順番をちょっと変えたほうがいいと思います。

E n v 右側にあるような内容をまず先にとということですか。

小菅氏 要するに生活が先あって、なんかあったときに健康の維持というのが出てくるわけだから、ハズバンドリーディングはそのために日ごろからやってくるんで、順番的には自然で快適な生活っていうのが一番目に来ると思います。

E n v はい。

福井氏 そこも、前回も言ったことがちょっと反映、まだしきれてないかなと思ってまして。予防とかワクチネーション、健康診断、これはやっぱり前面にいて、

治療は二の次ですね。病気がないほうがいいわけです。獣医が前面に出てくるのはあまり好ましくないかなと思いますね。あくまでは飼育管理のほうが主体ですから。ハズバンダリーも先でしょうね。治療っぽいこの雰囲気は最後でしょう、最終手段だと思います。最初は、健康診断、ワクチネーションなどの予防医学でしょうね。

E n v これは順番の、表現の仕方ということですね。

福井氏 そうです。

小菅氏 要するに飼育があって、そのあと、予防があって、それでハズバンダリートレーニングがあって、そのあとに治療というほうがいいんじゃないか。

E n v わかりました。

福井氏 ちょっと治療行為が結構全体的に前に押し出されたような文章表現にはなっていると思います。

小菅氏 小菅氏 飼育の理想は、治療は全く必要ないということになる。

福井氏 獣医が忙しい動物園はちょっと大丈夫かなと思っちゃいますね。獣医はたぶん研究とか教育のほうで忙しいほうがいいと思います。

小菅氏 あともう1点気になったところが、5ページ真ん中辺り。4つ目のかたまりのところの一番下で、野外個体群の再導入は間違い。補強か補充となります。

福井氏 補強ですね。

E n v すみません、あと1点、ちょっと今回変えたもののなかで、前回提案があったところで、目次構成ですが、基本理念の2つをくぐることと、それ以外のところで強弱をつけるということで、順番を並べているんですが、ここはいかがですか？取り組みのところで書いてますが、意味合いとしては動物福祉がやっぱり責務とか責任ということで、順序がちょっと違っていたりとかしたので、調査研究とレクリエーションを支える取り組みとして動物福祉とかを、もう少し分けて責任とかというふうにして、というふうにもう少し分けた構成も考えたんですが、それぞれ1項目ずつの構成になってしまうので、かえってわかりづらいかなということで、この4つを同じ章立てのなかのダブル項目としてあります。あと一番最後ですね。体制という章立てにして、コレクションプランと、それから行動指針ですけど、ここをちょっとわかりづらいというか、位置づけをもう少し整理したほうがいいのかという気持ちでいるんです

けど、このあたりの全体の作りについていかがですか？

吉中氏 やっぱり体制のところは、中身がまだこれからっていうこともあり、ちょっと想像しにくいんですけど、ここで書いたらいいんじゃないのかなと思うのは、やっぱり 1~3 で書いてあることを取り組んでいく、取り組みを進めていく上ではこういう動物園の実施体制が必要なんですっていうことを明確に書いていったほうがいい気がする。その1つとしてコレクションプランはこんな考え方で進めます。あるいはまたその別の1つとして、動物園の組織体制はこうあるべきです、こういう人材、人員、分野の職員がどうしても必要なんです、みたいなことを、今後戦う武器として書き込む。そういうのがあって、更に必要であれば、各主体の行動指針というのはこうですっていうものが、この4の実施のための仕組みづくりのためとか、体制づくりのなかに入ってくるのではないのでしょうか。もちろんこれから財政の局面で話していくなかで、やっぱり必要な人材とか、必要な部局はこんななんですっていうのは、やっぱり書いてしまったほうがいいんじゃないかなという気はします。それは行動指針というよりも、必要な体制っていうのが明確にあってそこにまとめる。

E n v ここもう少し理念的とか、目指す、必要としてるようなものをまず書いてということですか。

吉中氏 そういう気がするんですけどね。こんなのなんでいるの？て言われたときに、その前段で書いてある、こんなことしないといけないので、こういう体制がどうしてもいるんです、という説明にうまくつながれば、という気がしました。あともう1点いいですか？はじめに、のところなんですけど、このビジョン2050と各種計画との整合性ということで、札幌市のいろんな計画との関係性が書かれてあるんですけど、どっかにSDGsとか生物多様性のグローバルな目標みたいなのと、が出てきてもいいのかなという気がしました。

E n v 世界的なながれという意味で。

吉中氏 はい。国境を越えた計画とにも関係してるんだよっていうのがあるといいかなと思いました。

福井氏 ひとつ目次を見たときに、構成はこれでいいのかなと思いました。レクリエーションという言葉がぽんと出てきている。これはどうしても日本のこれまでの動物園の4つの社会的役割にとらわれてる感があります。レクリエーションっ

ていうと娯楽みたいな感じで発展していきがちなので、わかりやすく言葉を変えちゃってもいいのかもしれないですね。人間性の再生がいいのか、憩いの場とか、動物の心地よさみたいなものとか。

E n v 確かにおっしゃられるように、JAZA が出す 4 つの柱みたいなものと、円山はやっぱ違う、そこにとらわれずにいいんじゃないかというような話もあつたので、種の保存という言葉はあまり使わなかったりとかしています。保全という言葉、conservation という言葉を使っていて、ほかのところもそういう表現もあろうかと思うんですよね。レクリエーションのところも。確かにいわれるように思いました、内容を表す、たとえば英語とかにしても、表現も何かないかなというふうに考えると、普通に楽しいとか楽しむとか、英語でもいろんな表現がありますね。たとえばアミューズメントみたいなものとか、エンターテインメントみたいなものとか、単にファンみたいな、英語に直してもまあ違う表現だし、日本語でレクリエーションって片仮名で書くことになるので、ほかの言葉でもいいのかなと思ったんです。そこはだけど、そうはいつでも JAZA に限らず WAZA とかでもレクリエーションという言葉で出てくるので、使いました。

小菅氏 ここのところね、リ、・、クリエーションとして、あ、なんか違うぞっていうふうに思わせるっていうことが大事だと思いますね。

E n v では、片仮名で書いたときにも。リ、ですか？レ？リ・？

小菅氏 僕はいつも、リ・クリエーションを使っています。

福井氏 リ・クリエーション。

E n v では、片仮名表現で、リ・クリエーションとしておいて。括弧のところは、そうですね。片仮名の表現は変えればいいですね。目次であったり、そのほかのところも使いますね。

事務局
(加藤園長) 基本理念を支える取り組みなのか、なんなんだろう。実現するための取り組みなのか。

E n v こども、そうですね、基本理念という表現も若干ちょっと何かほかの表現の内容になってきているのかなとも思ってるんです。大きなビジョン 2050 っていうのがあって、2050 という大きなビジョンに向けての 2 つの柱というような感じなので、基本理念としなくてもいいのかなと。

事務局
(加藤園長)
E n v 2 つめでもいいんだね。基本理念はね。
そうなんです。一応、大きな 2 のところは 1 の 2 を受けてというところなので。

小菅氏 微妙に違うですよ。ね。
E n v そこはまあ同じような扱いにはなりません。基本理念という言葉がなんとなく今やちょっと違ってきているのかなという気がします。でも園長おっしゃったのは、実現するための取り組みにして。そこに関しては、実現するための、ですね。

事務局
(加藤園長)
E n v 取り組み。
だから実現する対象は大元のビジョンですね、きっと。ビジョン 2050 ですね。

事務局
(加藤園長)
E n v 基本の理念が 2 つあるんでしょ？ここは。
だからビジョン 2050 という、2 番の大元といいますか。そう考えると実は保全も教育も実現するための取り組みですね。

事務局
(加藤園長)
E n v ではある。
では。実現するための取り組みのなかですか。

事務局
(加藤園長)
E n v 保全と教育を進めるためには調査研究やリ・クリエーションや動物福祉などが
必要になる。目次のところに環境教育って書いてあるけど。

E n v そうですね、そこは、環境教育と環境教育以外の教育ですが、これは職員プロジェクトのなかでも出てきた、もう少し情操教育的なものであるとか、博物館的な、そういうイメージの教育であるとか、てことで、ちょっと環境に限らずというところをしたい。

福井氏 あと 2 つだけいいですか？1 つは、17、18 ページとかの、1 つは細かいとこなんですけど、協働、連携っていうのが各スレッドに対して、協働、連携ってずっと続きますけど、ここは協働連携のことを話してるので、たとえば市民の民間団体と、ほかの動物園・水族館となど、なるべく重複を減らして、文章を全体的にシンプルにしたほうがもっとわかりやすいかなと思います。あともう 1 つ、はじめにのところなんですけど、今、円山動物園が置かれている現状がどうなのかが必要。たとえば札幌や北海道の人々を含む生態系の位置づけってどうなのかな。たとえば人口増加して、高齢化が進んでいてっていうギャップがある札幌市として、世界的に見てもヒグマやエゾシカといった大型なほ乳類がこんな人口が密集する地域のすぐそばにいて、今、その対策とか共存が求められて

いるっていう現状。一方で希少な猛禽類や、ザリガニや、いろんな両生・は虫類も含めていろんな動物が絶滅の危機に瀕している種もいる。管理が必要な種もいる。というような現状として、そんなすごい自然がある、でもそういう自然に関連して問題がたくさんあるなか、札幌、北海道で、円山動物園がビジョン 2050 を打ち上げていく理由、背景がこの「はじめに」で必要になるのかなと思います。

E n v もう広いというか、社会的な背景ですね。

福井氏 そうですね。円山動物園の役割は非常に大きいと。そういう場所だということの背景。

E n v それと今回の策定経緯というところでしょうか。

事務局 (加藤園長) 2050 の策定の背景。

E n v 策定の背景のなかには、円山動物園では過去にこういうことがあったので必要となったということだけではなくて、もっと社会的な、今、福井さんがおっしゃられたような背景があるので必要ということを書く。

福井氏 このへんのちょっと位置づけが、理解しきれませんが。ここに生物多様性札幌ビジョンとか、緑の基本計画が入ることによって、たぶんヒグマとかシカの問題を加味してかなきゃならないっていうようなことになるんですね。

E n v 先ほど吉中さんがおっしゃられてた、ここの位置づけのなかには SDGs とか、生物多様性戦略のような広い枠組みのものも必要で、更に円山始原林のところもですね。

福井氏 そうですね。具体的な、市民がイメージしやすい札幌の置かれてる現状を説明したほうがいいかなと思います。

E n v 議論が収束はしなさそうなんですけど。

事務局 (加藤園長) 議論がこうまだまだ深まりそうなところもあるんで、今年度についてはいったんここでおしまいになっちゃいますが、まだまだ書き込まれる部分が今後も出てくるんで、ちょっと検討しますけども、年度明けてからまたお集りいただくかもしれません。

佐藤氏 それはぜひ。

事務局 (加藤園長) はい。もう一度ぐらいは、あと集まりいただくような方向で考えたいと思います。

吉中氏 するとおおまかなっていうの、どんな感じになりますか？市民動物園会議が4月にありますよね。そのへんですか？

事務局 (加藤園長) そこをどうするかも含めて考えます。

吉中氏 わかりました。

事務局 (加藤園長) 市民動物園会議やってからやると、もう1回市民動物園会議やらなきゃいけないので。

福井氏 すみません。さっきの話でもう1回付け足しで。4ページの地図があるじゃないですか。円山動物園は、たくさんの方が暮らす都市部と豊かな大自然が交わるところに位置します。これはまさに札幌市の象徴的な原生林があって、こんな大都市があるっていう地図にもなると思います。これと、さっきの自分の発言で、「はじめに」の札幌が置かれている状況と、立地状況と、だからこそんな野生動物問題があって、保全と管理と、両方一体になってやっていかなきゃならないということ。その状況が背景としてあって、円山動物園が果たさなきゃいけない役割がビジョン 2050 になっていく。なんかこの地図とかも絡めて説明するといいいんじゃないでしょうか？

E n v そうですね。前はもうちょっと前のほうに、基本理念のあたりの説明のところにこの写真を使っていたんですけども。4ページで言いたいところは、身近なところにこんなに豊かな自然があるんだからということで、もう少し景観写真みたいな、森林の写真であるとか、円山の頂上から札幌市を展望した写真であるとか、そういう写真でもいいのかなと思います。位置づけ的には福井さんおっしゃるように、はじめに、のようところに円山動物園の立地とかこういうので見せながら。

佐藤氏 それはいいんだけど。ちっちゃい。前のほうがまだ良かった。

吉中氏 細かい話で申し訳ないんですけど、気になったこと1点だけあったのは、魅力を伝える、そのあたりかなと思うんですけど、いろんな年代の人にこう伝える仕組みが必要とかがあってあたりしたんですけど。障がいのある人とか、そういう人への対応が、あるいは最初のころでちょっと話に出てたのは海外からの利用者っていうのが出てて、ほんとにバラエティに富んだ人にどう伝えるかっていうのを、なんかどっかにあってもいいかなと気もしますね。

E n v もう少し書いたほうがいいのかと思います。

吉中氏 バリアフリーとかですね。それに、バリアフリーというより、もう海外の人、日本語わかんない人も含めたユニバーサルなサービスをやるんですよね。

E n v 海外からの利用者への、というのはニュアンスとして含んでいなかったという、ちょっと考えていなかったの。このあたり、より多様な人に楽しんでもらえるように、利用してもらえるようにというのが。ここでいいですか？

吉中氏 ここでいいかもしれないですね。どこでもいいですが、一番じっくりくるかもしれない。でも、伝えるのところでも、たとえば9ページで、子どもだけでなく大人にも満足してもらえるようななんかプログラムみたいな感じで。そういうとこにあってもいいかもしれない。あとすみません。思ったのは、どっかで、調査研究のところですか。外部の研究者の方々の協力をしっかり得ていく、5ページですね。5ページの、生息地の保全みたいなところで、外部の保全機関や研究機関から専門家を招へいし、動物園の実施する保全活動を審議、判断する検討委員会を設置するなど、のところですね。すごくいいことであると思うんですけど、今、市民動物園会議っていうのがあって、そこで市民の目線でいろんな意見を言える機会がある。更に、本当に専門的な、科学的な知見からいろんなご意見をいただく場っていうのがあって、やっぱりいいんだろうなと思うんですね。それはもしかしたらこの保全のところだけじゃなくて、環境教育でもそうだし、それを支える、まさに動物福祉のところでもそうなんですけど、なんかそういう仕組みをどっかで考えるとどうかなと思いました。たぶん、行動指針のところにも少しそういうのが書かれてあったんですけど、外部の専門家に見てもらう機会を仕組みとして作っとくといいいのかなというふうに思いました。

E n v 保全のところは具体的に書いて、実際は一番後ろのほうの体制のところを書くべきことかなとちょっと思ったんですけど、今、吉中さんがおっしゃるように、保全のそこだけではなくてということですね。

吉中氏 まあ必要に応じていろんな分野の専門家、貢献してもらえるような仕組みがあってもいいかなと思いました。先ほどの福井さんがおっしゃった、飼育動物の情報を公開するというのも少し関連してくるのかもしれないんですけど。円山動物園だけで全部背負うんじゃなくて、いろんな人の協力を得ていくんだというひとつとして、情報を公開した上で外部の専門家の知見も活用するみたい

なのがあってもいいのかなと思いました。

E n v それはやっぱり後ろのほうの体制のあたりに、それぞれ書くんでしょうか？時間ですね。

吉中氏 時間になりました。もしかしたらまた声を掛けていただくことになるのかもしれませんが。すごくいろんな意見が出て、私も勉強になりましたので、更にこれがどう変わっていくのかぜひ見たいですね。こういう場がいいのか、個別に相談させてもらうのがいいのか、お任せいたします。

事務局
(加藤園長) 集まっていただけだと思います。

吉中氏

わかりました。何か今、言っておきたいことありましたらお聞きしたいと思えますけど。何もまとめの話を考えてなかったんですけども。今の予定では4月の始めに市民動物園会議がありますので、そこで進捗状況みたいなのはご報告を動物園のほうでしていただくのか、私がするのかわかりませんが、そういうことにはなると思えます。それで、市民動物園会議のほうのご意見をもらって、そのあとどうするかということですかね。

事務局
(加藤園長) ちょっとそのへんも含めて検討します。

吉中氏

はい、どうぞよろしくお願いします。では取りあえず、予定されていた第5回のポスト基本構想検討部会というのを終えて、このあとは、どうなるんでしょうか、わかりませんが、またお目にかかれると思いますので、よろしく願いいたします。つたない司会進行で申し訳ありませんでした。ご協力いただきまして、ほんとにどうもありがとうございました。

複数人 「どうもありがとうございました。」

(了)